

スウェーデンからの友人

久しぶりに帰ってきた高校時代からの友人。ストックホルムに住んで44年になったという。数年前80歳をこえた父を、札幌から帯同し、在宅介護をしていたが、昨年見送った。福祉先進国の介護についての、光と影を口にした

▼福祉制度は北歐型が理想と考えることに異論はない。ただ、その実態となると、介護に携わる普遍的な人間性に関わることで、兵役免除に関連した質の問題を幾度も口にしたことに、少々遺族感情が交じっていることを差し引いても、この課題を解く困難性は、何処も同じなのかと忖かざるを得ない。▼日本政府は平成27年度開始の次期改正介護保険制度で介護事業の一部を市町村の役割とした。本市ではすでに準備に入っているものの、財源の不透明性は相変わらずつきまとう。オバマケアも、同質な問題だと言えよう。負担とサービスのバランスについては、時間をかけた丁寧な説明の中からしか合意は生まれまいだろう

▼石狩の国民健康保険財政は被保険者の担税力を超えているのに、5.8億円もの累積赤字。現制度での介護保険は早くも基金からの導入を行っている。彼はEU諸国ならどこでも通用する医療カードを携帯していた。医療費の本人負担は、月1万円を限度とする制度とのこと。超高齢社会を目的の当りにする今、党派を超え、腹のくくった制度設計を国民、自治体は強く望んでいる。(市長)

広告